



「クワガタ（宮の里で採取）」
（撮影：小林会員）

令和 7 年 9 月号 Vol. 257
(2025 年)

発行：令和 7 年 9 月 8 日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <https://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者 会長 田頭 文昭 編集担当者 澤田 正弘

《第 79 回あつぎ鮎まつりの支援》

行事区分：行事支援

日 時：8 月 2 日（土）12：00～17：00

場 所：東町スポーツセンター

参 加 者：会員 4 名

今回の鮎まつりの行事支援は東町スポーツセンターのクーリングスポットの受付対応のみで、市の職員 3 名と我が観ボラ 4 名の体制でした。業務の内容は、施設が土足禁止のため、お客様へ上履きのスリッパを配る事と靴を入れるビニール袋を配る事がメイン業務でした。



12 時から役割分担等の打ち合わせの後、12時半頃から各ポジションに付きました。30度を超える猛暑の中、14時からオープニングパレードが始まると、徐々にお客様が増えて来ました。15時には約50名のお客様が休憩されていました。16時頃になると1階の休憩所が一杯になり、2階の休憩所のお客様も大分増えて既設のベンチシートは満杯となり、床に座り込むお客さんも20～30名と増えました！

綾瀬市から初めて来たという二人（60代？）のご婦人は「こんな休憩所があってうらやましいです！」と言って、長々休憩されて19時からの花火観賞に出て行かれました。このクーリングスポットは17時閉館のため、お客様は18時頃まではやってほしいようでした（私の意見）。

今回、熱中症などで応急処置が必要な事案は無く、幸いでした。室内の業務でしたが、立ちっぱなしの5時間は老体には応えましたが、無事完了でき、参加者の皆様のご協力ありがとうございました。
(山下武敏 記)

《夏季入込観光客調査》

行事区分：行事支援

日 時：8月17日（日）9：00～16：00

場 所：厚木市内5拠点

参加者：10名

七沢森林公園（出会いの広場）

今日は朝から暑い日差しが一杯の一日でした。訪れる方も暑さのためなのか、だいぶ少なく合計で280名ほどでした。昆虫網を持った子供連れのご家族が何組かいましたが、一日を通して今年は特に少なく感じました。バーベキューへのグループは何組かいましたが、我々の案内テーブルには立ち寄りの方が少なく、アンケートをいただいたのも3名の方でした。

時より弱い風も吹いては来ても日差しをよけるためパラソルをずらしたり、椅子をずらしたりしてこまめに対応しましたが、それでもやはり体が熱く水分補給が欠かせませんでした。厚木市の防災無線でも熱中アラートの放送があり、高齢化した観ボラメンバーとしては、この時期の当該活動は検討すべき課題もあるようです。（鈴木 記）



飯山温泉（中飯山自治会館）

朝から熱中症警戒アラートが発表されている中での準備です。調査場所の飯山白龍の館は、日曜日は野菜の直売で、9時開店のお客様が大勢並んでいます。歩いている人はいません。

9時調査開始。観光客は来るのだろうかと思うスタートです。車は通り、市外ナンバーの車も多いのですが、行先は左折して漏れなくグランド方面です。



バスが来ますが、降りる人が無く止まりません。やっと一人下って来たので、声を掛け、歩いている人がいないのと、アンケートをお願いすると、快く応じてくれました。トレランで良く来ている人で、「白山・桜山コースは以前より荒れてしまった」と話してくれました。

今、トレラン人口は増えていて、私が他の山に行くとランナーが多いです。飯山は観音様を目指し走って来ますが、白山・桜山コースは通れなくなったコースもあり、以前より走っていません。ライトコースとして、少し整備が必要に思います。

観音詣での人からは、「春に来た時はご開帳していたので、日曜日に来れば開いているのかと思って来たのですが、閉まっていて残念でした。」とのことでした。今年は開山千三百年で春の日曜日は特別御開帳でした。と話し、今年は、秋11月にも特別御開帳が行われるので、またお越しく下さいと案内しました。

ハイキングの一人山行の女性、白山巡礼峠コースで七沢へとの事でしたが、戻って来ました。歩いた事のあるコースですが、だれも歩いている人が無く、心細くなったようです。

暑い日、この日唯一のハイカーでした。この人からは、本厚木駅前の飯山方面行きのバス停が通りの向こうで、わかりにくいとアンケートがありました。

今日はたまたま通り過ぎるのは、地元の人と、暑い中、何も持たず走る地域ランナーでした。入込調査終了。帰り道、物寄峠に通ずる道ではヒグラシが鳴いていて、気持ちは涼しくなりましたが、まだ秋は遠い暑さです。
(菅谷 記)



会 員 投 稿

《 四国八十八カ所巡礼番外編 高野山 (3) 》

清田 邦男

高野山真言宗準別格本山無量光院。これが高野山における私の宿坊です。準別格本山とは高野山真言宗における寺の格付けです。総本山金剛峯寺を頂点に大本山寶壽院、遺跡本山（ゆいせきほんざん）神護寺、観心寺、別格本山、準別格本山、別院、一般寺院教会があります。

無量光院は、開山は高野山諸院家帳では良琳、諸院家析負輯では白河天皇の皇子覚法親王（仁平3年1153年没）、高野伽藍院跡考では久安元年（1145年）行恵総持房と諸説あります。覚法親



無量光院玄関

王、行恵が開山であるとすれば平安時代、12世紀前半の創建でしょうか。寺の名前の示すとおり、本尊は阿弥陀如来。阿弥陀仏は梵語（サンスクリット語。古代インドの文語）のアミターバ（無量光）又はアミターユス（無量寿）に由来し、無量光仏あるいは無量寿仏ともいいます。全国寺院名鑑（全日本仏教会）によるとこの本尊と脇侍の不動明王、愛染明王は行基の作で覚法親王の護持仏だそうです。



宿 坊

さて、寺の宿坊とはどのようなところでしょうか？まず、風呂が大きい。四国遍路では37番札所の岩本寺と75番札所の善通寺に泊まりましたが、いずれも大きな風呂でのんびり手足を伸ばし、リラックスできました。善通寺と、泊まったことはありませんが6番札所温泉山安楽寺は天然温泉です。一般の遍路宿は小さな風呂が多いので、たまに入る大きな風呂は楽しみ

です。

ここ無量光院の宿坊は、庭園に面した赤い床の長い廊下にあります。私が宿泊した部屋は8畳間。一人で泊まるには広すぎるくらいです。前回宿泊したときは6月26日、もう暑い季節ですが、テレビは勿論エアコンもなし。さすが修行の地と感心しました。今回もテレビはありませんでしたが、エアコンは設置されていました。聞いてみると、最近が高野山

も夏は30度を超え、合宿に来た高校生が耐えられないためだとか。地球温暖化の影響、おそろべし！

食事は勿論精進料理。魚、肉など生臭物は出ません。最初に泊まった時は、夕飯にとんかつにしか見えない揚げ物が出て、何かわからないので、聞いてみると大豆ミートだそうなので、精進調理も進化しているのですね。宿泊者の世話は修行僧が担当していて、最初のときは有髪の若い女性で、徳島の人なので遍路に興味があるといってもらっていました。今回は中国安徽省出身の僧侶で高野山大学に留学し、卒業後は無量光院で修業されているそうです。

翌朝は6時から勤行。白衣に輪袈裟姿で数珠を持ち、10分前に本堂へ向かいます。本堂へつながる廊下の前で尼僧からからお香をいただき、本堂に入る前に身体につけます。本堂は扉を閉じ、暗闇の中、内陣の仏たちが蠟燭の明かりに照らされています。本尊と脇侍は色鮮やかな曼陀羅を背にしています。内陣右側には弘法大師像と不動明王、その前には護摩壇の火。実に神秘的な空間が目の前に広がっています。宿泊客は、私と高野山大学通信課の北海道から来た女学生の二人。外陣の席に座ります。

6時開始。読経というのか、声明というものか、歌うような心地よい声。鳴り物もあり、シンバルのような仏具の音が響きます。お経がまるで讚美歌のように聞こえます。宿泊客による本尊への焼香、弘法大師への献茶の後、燃え盛る護摩壇の前の椅子に座ります。そこで、僧侶に、背中、首を押され、叩かれ、自席に戻ります。護摩壇では、織田、上杉、



宿坊の精進料理

浅野などの大名家や忠臣蔵の大石内蔵助など諸人の菩提、諸祈願が行われ、最後にこの勤行を取り仕切る僧侶が宿泊客に挨拶し話しかけます。私は遍路姿でしたので、四国遍路で御大師様に会えましたかと声をかけられました。これは遍路の間、お接待や親切、助けてくださった方すべてが御大師様ということだそうです。こうして、2時間にわたる勤行を終わると庭に面した座敷でお茶とコーヒー、菓子のもてなしを受け、歓談します。今回は勤行を取り仕切っていた僧侶と尼僧、住職婦人と客二人です。前回は勤行を住職が仕切り、歓談の席にも参加されていましたが今回は不在でした。

それでは、前回と今回の歓談の場で私が聞いたことについてお話します。護摩行の中で、上杉謙信の名前があり、大河ドラマ「風林火山」で Gact 演じる上杉謙信に内野聖陽の山本勘助が高野山で会う場面を覚えていたので、それはこの寺ですかと尋ねると、勤行を取り仕切っていた僧が「そうです。私も見ましたがまるでこの寺で撮ったのかと思いました。」とのこと。上杉謙信は天文22年(1553年)と永禄2年(1559年)の二度の上洛の際、無量光院を訪れています。その後、無量光院の住職清胤から阿闍梨権大僧都の位階を受けています。また、大石内蔵助との関係を尋ねると、浅野本家の他赤穂浅野家も檀家で、吉良上野介に刃傷切腹となった浅野内匠頭の妻瑤泉院の手紙も本堂にあるとのこと。この手紙は最初菩提寺である高輪の泉岳寺に納めようとしたところ、泉岳寺は幕府をおそれて断ったので、この寺に納められたそうです。

余談ですが、当院のホームページによると、無量光院に併設する悉地院は織田信長の護持僧であった盛存坊堯海(桶狭間の戦いで今川義元を討ち取った毛利新介の弟)が住職と

なったため、織田家臣団の浅野、池田、伊藤、毛利、丹羽、福島家の帰依を受けたといわれます。なお、無量光院は先の各家に加え、毛利輝元、今川氏真、武田、細川（全国寺院名鑑）、筒井、伊東（大和紀伊寺院神社大辞典）の諸家の帰依を受けています。また、有栖川宮家の菩提寺であることから、高松宮ご夫妻が参詣、宿泊されたこともあるそうです。

無量光院では、護摩祈願も受け付けており、私も両親の菩提をお願いしました。そうそうたる大名家と並び名を読み上げられるのはこそばゆい思いでした。話の中で、当宿坊を



徳川家康次男結城秀康石廟

選ぶとき高野山宿坊協会にどのようなことを希望されましたかと問われ、正直に宿泊料が安いことと答えると、無量光院に宿泊されるお客様でよくあるのは朝の勤行をしっかりと行っていることという人が多いとのことでした。最近はこのように毎朝しっかりと護摩行を行っているところは少ないとのことでした。

ところで、最初に無量光院を訪れたのは令和4年でしたが、その時の宿泊料は12,000円でした。今回（令和6年）は22,000円に値上がりしていたので、遍路宿のおかみさんに言うと「それは良心的な宿坊ですよ。今は4万円、8万円が普通で、1泊20万円という宿坊もあるそうです。」といわれました。インフレの波が押し寄せている感じです。ちなみにこの遍路宿は1泊2食付きで6,500円でした。

国際交流の話では、無量光院はアジア、欧米、オセアニアの十数か国から密教修行者を受け入れています。弘法大師が唐の長安で恵果阿闍梨に学んだ青龍寺とも強いつながりを持ち、中国では途絶えてしまった密教を復活させたいという青龍寺の管長の強い希望に沿って活動してきました。まさに恵果阿闍梨への恩返しですね。そんなご縁もあり、2004年には王毅駐日大使（現中央政治局委員兼外相）もここを訪れ、宿泊されたそうです。歓談を終わり部屋に戻ると朝食が用意されていました。当然精進料理です。朝食後、無量光院を辞して奥の院弘法大師御廟に出発。玄関、廊下からお坊様達が見送ってくれます。



武田信玄・勝頼の墓所

御廟まで約3km。バスもありますが遍路ですから当然歩きます。途中、小田原通りの後北条氏菩提寺の高室院前を通り、苅萱道心と石堂丸のゆかりの地にある苅萱堂にお詣りし、奥の院の入口一の橋へ。橋の向こうには樹齢数百年の杉林が広がり、20万基を超える墓碑が並び、聖地です。曾我兄弟、熊谷直実、平敦盛と源平合戦や鎌倉時代の仇討の英雄の供養塔の傍に大岡越前の供養塔があり、さらに進むと武田信玄・勝頼、上杉謙信・景勝の供養塔と時代、敵味方関係なく並んでいます。諸大名や歌舞伎役者の初代市川團十郎、

企業経営者、無縁塚など様々な供養塔、墓石、御霊屋が並んでいて、歴史好きにはこたえられないでしょう。法然上人や親鸞聖人の供養塔など他宗の宗祖の供養塔もあります。

途中にある中の橋は手水橋といい、平安時代にはここで川の水で身を清めてから参拝したそうです。最後の橋は御廟橋、この橋の向こう側は大師御廟の霊域。写真撮影も禁止されています。ここで服装を正し、礼拝して渡ります。橋を渡り、正面の石段の上に見える燈籠堂は弘法大師御廟の拝殿にあたります。高野山二世真然大徳により建立されましたが、治安三年（1023年）藤原道長によりほぼ現在に近い大きさで建立されたそうです。堂の正面に千年近く燃え続けている「消えずの火」があります。祈親上人が自らのものと、育ての親を弔うため黒髪を切って献じた貧女の一燈「祈親燈」。白河上皇が献じた「白河燈」です。堂内は祈りを込めて奉納された燈籠で埋め尽くされ幻想的な雰囲気になっています。燈籠堂で読経の後、回廊に出てお堂の裏側に行き大師御廟を拝します。多くの人がこの回廊を去りがたく、ここに留まり、御廟を拝んでいました。納経所で御朱印をいただき、5月8日1番札所霊山寺から始まった四国遍路は6月22日に高野山弘法大師御廟で弘法大師への報告をもって終了しました。



奥の院への参道

高野山を下り、帰宅し、数か月たったある日、厚木市史中世通史編を見ていると、「無量光院」の文字。まさかと思い読んでみると、「永正2年（1505年）3月9日相州白根遍照院において、有伝僧都が高野山無量光院の僧で室町期から戦国期にかけて主に南部武蔵を中心に活躍した真言密教の学匠印融より西院流元瑜方の伝法灌頂を受法していることも、当寺の教学の一端を示すものであろう。」とあります。印融（1453～1519年）は無量光院の中興といわれ、学徳の誉れ高く、上杉謙信の師となる清胤の師にあたります。白根遍照院は、市内妻田にあり、その薬師堂であった妻田薬師は市内最多の指定文化財を有しています。



高野山奥之院の御朱印

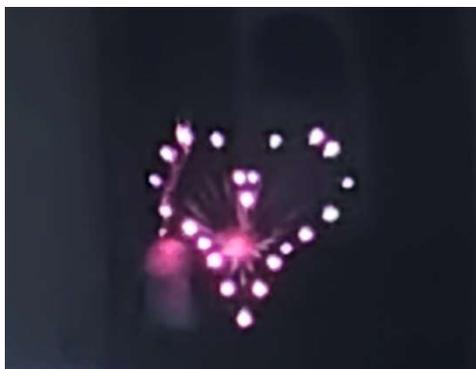
妻田薬師は我が家から約700mにあり、父の生家はその白根で代々農業を営んでいます。妻田薬師の寛永10年（1633年）铸造の鐘には24名の村人の名が刻まれています。そのうちの一人は父の生家の本家の先祖で、寛永期はまだ分家していなかったもので、私の先祖にもあたります。10月12日の縁日には毎年お詣りに行ったものでした。

無量光院との不思議なご縁に 南無大師遍照金剛 合掌

第79回 あつぎ鮎まつり

大花火大会

(撮影：高橋会員)



最近の活動

日付	場所	内容	参加者
8月 9日	アミューあつぎ	定例会	会員 15名
8月 17日	市内5拠点	夏季観光客入込調査	会員 10名
9月 3日	南公民館	編集会議	会員 3名

編集後記

3回にわたって清田邦男会員から高野山参拝時の投稿をしていただきました。まだ行った事がない方も、高野山へ行った様な雰囲気を知ること出来たのではないのでしょうか。まだ暑い日が続きますが、いよいよ秋のハイキングガイドの準備が始まります。10月の「江戸庶民の大山詣り」11月の「秦野権現山と弘法山」12月の「大磯の湘南平」とイベントが続きます。ハイキングに参加して日頃の運動不足を解消するのは如何でしょうか。

編集委員 小林 直樹 澤田 正弘 清田 邦男